

環境研究会・第 83 回 特別講演会

近畿本部登録 環境研究会 会長 安カ川 常孝
公益社団法人大阪技術振興協会
協力 公益社団法人日本技術士会 近畿本部

平成 30 年 3 月度の環境研究会例会では、株式会社 システム技術研究所長 榎屋治紀(つちやはるき)氏に、「100%自然エネルギーシナリオ」というテーマでご講演をいただきます。

IPCC は、ゴア元米副大統領とともに 2007 年度ノーベル平和賞を共同受賞しました。IPCC は、国連 (UN)と世界気象機関 (WMO) が 1988 年に共同で設立した組織で、京都議定書の成立に大きな役割を演じ、地球温暖化防止のための科学的な知見を提供する活動を行っています。IPCC の代表としてインドのパチャウリ議長が受賞しましたが、IPCC の活動に参加した多くの自然科学者、技術者、社会学者、政策立案者などに贈られたものとされています。

IPCC はこれまでに 5 回の報告書を作成していますが、システム研究所は設立以来エネルギー分析の研究を行ない、IPCC の第 2 次報告 (1995) 作成のときに執筆に協力し、榎屋治紀氏はノーベル平和賞の写しの入った CREDIT CERTIFICATE を受賞されました。

いかにして、CO₂排出のない 100%自然エネルギーでの供給が可能なのでしょうか。そのシナリオの作成者である、榎屋治紀氏をお迎えしてご講演を頂きます。

記

日 時 平成 30 年 3 月 16 日 (金) 18:30~20:30

テーマ 「100%自然エネルギーシナリオ」

講師 榎屋 治紀氏 (株)システム技術研究所 所長

東京大学工学部機械工学科、同大学院博士課程修了。工学博士
システム工学専攻。1979 年(株)システム技術研究所を設立。
電子ブックの開発、太陽電池コストの学習曲線による分析、持
続可能なエネルギーシステムを研究。

2010 年より太陽光発電の技術者を養成する京都エコエネルギ
ー学院・学院長。IPCC 報告書の作成に協力し、2007 年 IPCC の
ノーベル平和賞受賞に際しては協力証書を授与された。

著書：『エネルギー耕作型文明』(東洋経済、1980)、『燃料電池』(筑摩書房、2003)、
『調べてみようエネルギーのいま・未来』(岩波ジュニア新書、2003)、
『これからのエネルギー』(岩波ジュニア新書、2013)、
共訳：『ソフトエネルギーパス』(時事通信社、1979)

場 所 アーバネックス備後町ビル 3 F ホール

地下鉄御堂筋線本町駅、1 番出口から徒歩で北東へ約 1 分

* 1 番出口を出て左(東側)へ向かい、次の交差点を左折(北へ)、左側 2 軒目のビル

参加費 1000 円 (一般の技術士会員及び技術士以外の方) (環境研究会会員及び学生は無料)

懇親会 講演会終了後、2F のレストランで講師を囲んで懇親会を開催します。(費用は 3,000 円)

お申込み・お問い合わせ

環境研究会連絡担当： 藤橋 雅尚 m.fujihashi@nifty.com

